



明星学園へのアクセス

最寄り駅への路線図



数字は吉祥寺駅までのおおよその所要時間です。使用路線や時間帯によって変動します。

最寄り駅からの地図

駅から徒歩

JR吉祥寺駅から 約15分

京王井の頭線 井の頭公園駅から 約10分

駅からバス

JR吉祥寺駅から 約10分

JR吉祥寺駅公園口、丸井前4番のバス停から「明星学園前」行(小田急バス)に乗車。終点「明星学園前」下車。約15~30分間隔で運行。

JR三鷹駅から 約10分

JR三鷹駅南口駅前から「三鷹の森ジブリ美術館」経由「明星学園」行に乗車。終点「明星学園前」下車。約30分間隔の運行。



Myojo



明星学園中学校・高等学校

中学校 入学者向け



写真は通学路となる井の頭公園です。

Myojo Gakuen Junior High School





find yourself
express yourself

それぞれの表現をもとめて

共に考える時間と場所

明星学園中学校・高等学校は、新たに入学する皆さん一人一人を

日々の豊かな活動の場を共に作る新たな仲間として迎えます。

教員である私たちは、対話を大切にしながら

授業をはじめ、様々な課外活動において持っている知識と経験を皆さんに伝えます。

皆さんは、ゆっくりと少しずつ迷いながら、自分の“考え”を持ってください。

そのためには、失敗を怖がらずに発言したり

入学後あっという間に親しくなった友達とのおしゃべりを楽しんだり

あるいは一人になって空を見上げたり、本屋に立ち寄りたり

少しぼんやりとする時を持つ工夫も大切かもしれません。

日々の授業は、すぐに役立つ知識や合理的な方法ばかりを教えるのではなく

皆さん自身が豊かに感じたり、考える機会をつくり

自らの答えをじっくりと導き出して、歩き出す事を目標につくられています。

小さな疑問や興味をきっかけに

さらに深く物事を掘り下げて調べ、ひとつの意見や考えに発展させていく。

そんな皆さんの探究する意欲と活動を、教員が力強く支えます。

明星学園中学校・高等学校 校長 山領 直人

中学校と高等学校の6年間を使って、
夢や目標の実現に向けた
教育プログラムを構成しています。



中学校での3年間では基礎・基本学力を定着させながら、自分で疑問を見つけ、考え、対話し、発見する力を育みます。

中学3年生の1年間は「卒業研究」に取り組み、主体性・思考力・表現力の総合化を図ります。

高等学校2年になると、それぞれが希望する進路へ向けて、文系/理系/実技系(体育、音楽、美術、家政)の中からコースを選択します。各進路に応じた「選択授業」が多彩で、専門的なカリキュラムが充実しているのが特徴です。このような教育環境のなかで大切なのは、偏差値だけで志望校を選ぶのではなく、自分の意志で進路を決定することです。

それには中学校時代いかに多様な他者と出会い、しっかりと自分自身と向き合ってきたかが問われます。

中学校3年間の学びは単に知識を詰め込むだけではなく、社会に出てからも主体的に生きる基礎となるのです。

中学1年生の時間割例

	月	火	水	木	金	土
1	英語	体育	英語	社会	英語	美術
2	理科	哲学対話	数学	国語	数学	
3	総合英語	国語	体育	音楽	国語	社会
4	体育	数学	図書館と情報	理科	理科	国語
5	音楽	社会	ホームルーム	数学	木工・工芸	
6	社会	理科		英語		

高校3年生の時間割例 (文系コースのイメージ)

	月	火	水	木	金	土
1	体育	政治経済	現代文	政治経済	時事英語	現代文
2						
3	コミュニケーション英語	古文	世界史	コミュニケーション英語	古文	世界史
4						
5	[自由選択]	現代社会論考(総合)	ホームルーム	[自由選択]	[自由選択]	
6						

■の枠が選択授業です。

火・木・金の1・2時間目はコースの設定に関係なく選択できる「選択必修授業」。

水以外の5・6時間目は「自由選択授業(そのうち一つは総合的な学習)」。

高等学校での必修授業と選択授業の割合の推移

学年が上がると必修授業の割合が減り、それぞれの

選択に沿った授業の割合が増えます。

高校2年から始まる自由選択授業は、10名から20名のゼミ形式や、教員2名が組んで行うチームティーチング等の多彩な形式で、それぞれの科目の目的や内容に合わせて設置されています。



高等学校の多彩な選択授業の例

論理国語、文学国語、古典探究、漢文、数学B、数学Ⅲ演習、倫理、政治経済、生化学実験、地学(宇宙)、地理基礎演習、生物基礎演習、化学基礎演習、時事英語、英会話、読解演習、文法演習、リスニング、論理・表現、リスニング、ドイツ語、中国語、サッカー男女、剣道、陸上、ダンス、体育トレーニング、体育スポーツ論、手芸、華道、染色、服飾デザイン、幼児教育、調理、CGデザイン、素材技法、音楽鑑賞、アンサンブル、ソルフェージュ、ボーカ尔特レーニング、オペラミュージカル、ボーカルアンサンブル...



大正末期、校舎北での畑作の様子



明星学園の学びについて

100年前から探究型学習

明星学園では1924年の創立以来、
教員が一方的に教えるような講義型の学習ではなく、
生徒自身が積極的に学ぶことができる探究型の学習を実践してきました。
“探究する学び”を経験することで、主体的に考えるちからを
身につけることができます。



自分で考える

課題解決型の授業などを通じて、
自分で感じて仮説を立て、
自ら表現する能力を育みます。



世界を広げる

授業や行事を通じて積極的に
新しい知識、価値観や異文化と
出会い、自分の世界を広げます。



ともに成長する

自分の意見を発表する機会が多く
あるため、他者との対話を通じて
思考を深め、協同^{*}性を獲得します。

※ 個々が対等の関係の中、それぞれの個を高めるために集団が働きあうことを「共同」、それぞれの役割をみつけ、集団で協力しながらある目標の達成を目指すことを「協同」と表記し、区別しています。明星学園には2つの「きょうどう」の場面が多く用意され、多様な個性が響き合う中で、個と集団の成長を促します。

北極圏で暮らす人々

シオラパルク(グリーンランド)
人々は生活してた？
北極圏=イヌイット(エスキモー)

1年生による
社会科授業の
ノートです

×モ イヌイットとは...
グリーンランドからカナダ、アラスカなど、北極に近い場
所に昔から住んでいる人々。

課題
イヌイットはアザラシをどのように食べるか？
①自分の考え
②だと思っ。

なぜかと言うと、こりあえず肉は火を通さないと食べられ
ないと思っ、②をすればあたたかくおいしくなるから。

みんなの考え
①さしみ 10人
②やく 10人
③にる 2人
④やす 0人
⑤ほす 9人
⑥こおす 3人
⑦つかもの 0人

理由
①② 1、6は害虫対策、②見たことない。
③ 火を通した方が良く、
④ ⑤ ⑥ ⑦ アイヌの食べ方アルイイがある。
⑧ さしみや刺身は、調味料のことを考えると...

まず自分で考えてみよう
これまでに学んだ知識などを
総動員して仮説を立ててみる。

みんなはどう考えたんだろ？
生徒たちそれぞれが仮説を発表する。

続きます→

解答を書き写すのではなく、クラスメイトと共同で思考
していく様子や授業の流れ、その時の自分が考えたこと
などをていねいにノートに記録しています。
主体的に探究することで、単純な記憶ではなく深い理
解へと発展させることが可能になります。

授業の特色紹介[ノートづくり]

ノートに書くのは
解答ではなく探究の記録

授業の特色である「ノートづくり」は探究する学びを
サポートするために長年続けられています。

5④ こうしてからかんそうさせる。短時間でできる。
⑤ 長時間火をつかうのはムリか？ ずのほりつでもできる。
⑥ 寝てできない。動物はあちこちにいるので=保食
⑦ 火を通すのは大変。害虫はいなくなる。
⑧ 木は貴重、吹雪がある。
⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

さまざまな
意見や予想が
生まれる

はんろん
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

それぞれの視点に刺激を
受けながら
さらに議論を深めていく。

みんなの考え
1 21人
2 17人
3 1人
4 0人
5 3人
6 2人

ちがう意見を聞いて
さらに自分で考えてみる
議論を通じて
自分の思考を深化させる。

私は(読)にする？や、ぱり意見は変えない？

結果
1. そのままだ。た？

わかったこと
野菜が育たないので、ビタミンがこれない？加熱されると肉
のビタミンがなくな、マシマシ、なのでビタミンをとるために
そのまま肉を食べる？

主体的に学ぶことによって考えるちからと
深い理解を得ることができます。

生徒の理解状況を把握
するために、教員が確認して
コメントなどを返します。



“探究する学び”を通じて 主体的に考えるちからを身につけます

授業は生徒が自分の心で感じて、自分の頭で考えることからスタートします。提示された課題に対する生徒たちの「なぜだろう?」「何が正しいのか?」という疑問や感じた思いを大切に、課題を解決するための仮説をみんなが自分で考えます。

教室の中には生徒それぞれの視点から「こうじゃないだろうか?」というたくさんの仮説が生まれますが、それらの意見を交流させて結論を探ることによって主体的な学びが生まれるのです。

このように簡単に解答を提示するのではなく、共同で探究することによって、多様な考え方があふること、間違いを恐れる必要がないことなどを経験できる授業形式は、明星学園の伝統です。共同で探究する授業を通じて単なる学力だけではなく、教養としての知識や人に伝えるための表現力、他者の考えを大切にする社会性が育まれるのです。

中学生という多くの可能性に満ちた時期に、将来必要となる“探究するちから”の基礎を築き上げます。



国語科



テキストを土俵にして 〈根拠のある読み〉を作る

教室(集団)で同じ文章を読んでいくとは、どのような行為なのでしょう。個人の読書と違うことは明らかです。教室は一つの社会です。正しいと思われることを共有していく社会があれば、それぞれの考えを認め合う社会などもあります。

明星学園では先生が正解を教え込んでいくのではなく、同じテキストを読む中で生徒が感じる「なぜ?」に耳を傾けています。そして誰かが提示した問いを基に自己や他者と対話をしながら時間をかけて〈根拠のある読み〉を築いていきます。テキストの表現だけでなくクラスメイトの発言も含めて一つの言葉に着目し、言語感覚を共同的に磨き、様々な表現をしていく中で、思考する力を育てていきます。

数学科



「なぜ?」という思いをきっかけに 主体的に学ぶ授業

中学校で初めて出会う“数学”へのギャップが少なくなるようにして“数学嫌い”を生まない授業を行います。

小学校の算数では具体的なものを取り扱っていましたが、数学では記号を使った抽象的なものになっていきます。その際に、想像しやすい題材を使いながら進めることで、徐々に“数学”の世界に入っていきます。

素早く解答を出すことだけを目的にせず、生徒自身が「どうしてだろう?」と疑問に思いつきかけから、主体的な学習意欲を引き出します。課題に対してそれぞれが意見を出し、共同で答えを求めて行くことを通じて、ひも解くことの面白さを実感しながら学ぶことができます。

社会科



歴史に学び、現代社会を見つめ 未来に思いをはせる

私たちが生きている社会のしくみや成り立ちについて理解して、その社会の中で自らがどのように生きていくかを探究していくことが目的です。

社会科の三分野である地理・歴史・公民の中から、東アジアの歴史学習に重点を置き、現代社会を自分の目で見て考える力を養います。

史実を暗記するだけでなく、生徒にとって身近な課題をとりあげ、現代社会のしくみや歴史を学び、解決に向けての議論を行います。生徒たちは自由に発想しながら意見を発表するなかで、異なる意見も尊重して分析することで、社会を総合的にとらえることができるようになります。



理科



生徒たちによる「共同研究」を通じて自然をとらえる目を養う

理科の授業は生徒たちによる「自然科学の共同研究」なものです。科学者が行う自然科学の研究には必ずテーマがありますが、この授業ではそれを「課題」と呼びます。

提示された課題に対して生徒たちが予想を立てるところから授業が始まります。それぞれの生徒による予想が発表されて、異なる意見に質問や反論を行いながら、生徒たちは集団的に課題を解決していきます。最後に実験で結果を確かめて、分かったことを考察として自分のノートにまとめます。

このような生徒たちによる「共同研究」を経験することによって、自然をとらえる眼が養われ、自然現象をよりよく理解できるようになります。

英語科



気づきを活かして“わかる”から“使える”へ導く

英語をただ機械的に覚えるのではなく、生徒自身の気づきをきっかけに、興味や関心を持って学習することによって、より深い理解に繋がります。

授業内では新しい表現を学ぶ際に教員が口頭で話し聞かせることから始めます。その言葉を生徒自身が繰り返し聞いて考えるなかで、意味を想像したり表現方法やパターンなどに気づくようになります。この気づきをクラスで共有しながら正確な文法を理解するという段階に進みます。

英語を「話す・聞く・読む・書く」という活動として体験することで、“気づき+わかる”という段階から、“できる+使える”という実践的なステップに繋がります。

保健体育科



それぞれの役割の中でスポーツと身体のしくみを学ぶ

体育の授業では、スポーツのルールや身体のしくみを正しく理解しながら、目的をもって身体を動かすことを学習します。グループ学習が中心に行なわれますが、運動が得意な人や不得意な人など様々な個性が存在します。その中でクラスメイトの身体の動きを観察して発見したり、それぞれの特性と役割を理解して、目標に対して互いに影響を与えながら成長する授業です。

保健の授業では、ヒトの生命のはじまりから身体のしくみ・健康について学習します。自分自身の成長や発達に関わる心と身体の関係を通して、社会や環境が私たちにどのような影響を与えているのかを学びます。

音楽科



自分たちで創り上げる喜びを～音楽を通して集団を育む～

合唱と器楽（キーボード演奏）を中心とした授業で、ひとりではなくグループでひとつの作品を創りあげます。教員主導ではなく、生徒が中心となって協同で作品を創りあげることで大きな感動を共有します。

「合唱」の授業では、周囲のクラスメイトや友だちと、一緒にハーモニーを創り上げていきます。明星学園ではクラス、学年、全校単位など様々な規模で合唱を披露する機会があり、合唱コンクールは毎年とても盛り上がりがあります。

「器楽」の授業ではミニキーボードを使ってさまざまな曲を演奏して音楽をより深く楽しめるようになり、学年が上がるグループでのアンサンブル演奏を行います。



美術授業作品



美術授業作品
美術授業作品



美術授業作品



美術授業作品



工芸授業作品



工芸授業作品



工芸授業作品



木工授業作品



木工授業作品



木工授業作品



木工授業作品



美術科



観察や発見を通して描くことは
ものを知ることに通じる

絵を描くだけでなく、丁寧に観察することや表現するための試行錯誤を通して、自身の視点と表現力を育みます。

例えば授業では、ガラスのピンをどうしたら立体的に描けるのかを考えます。様々な方法で観察するなかで、ピンを斜め上から見ると口や底が規則的な楕円になっている事実を発見し、それを紙の上に再現すると立体的なピンが描けることを経験します。ただ技術を覚えるのではなく、生徒自身の発見と経験を通じて表現するための技術を身につけるのです。

様々なことに対して「なぜ?」という視点でよく観察する経験から、自身の身の回りや社会を見つめ、豊かな発想力を育てることができます。

木工・工芸科



自分自身の手でつくり
ものづくりの喜びと価値を知る

「木工」の授業では、木材から食器などを削り出すという個人による製作から始めて、木材が持つ魅力や文化への理解を深めます。三年次には大きな家具を製作するために、自分たちでデザインを考えてすべての作業を協同で行います。

「工芸」の授業では、自ら製作した織り機で織りと染めを行います。クッションやタペストリーなど、身近なものを手づくりすることで、私たちの生活文化を改めて見つめ直す機会となります。

素材や加工技術について学習しながら、イメージを形にするための技術や発想力を身につけます。また、社会における「ものづくり」の価値と在り方にも目を向けます。



総合探究科



すべての教科と横断的につながり 主体的な学びへ発展させる

学ぶ意欲は、自ら生まれた疑問や関心が大きな原動力となります。その原動力が何であるのか。自己や他者との対話を通じて、それらと向き合い発見していくのが総合探究の授業です。

授業では、自分でテーマを設定し、必要な情報を集めています。自らの疑問について仮説を立て調査をする過程は、あらかじめ用意された知識を吸収するときとは異なる探究心を生み出し、行動力へとつなげます。

そのとき、各教科で得た知識や経験が発揮されます。教科で得た知識と総合探究科で磨いた情報活用能力、問題解決力、プレゼンテーション力は相互に関わり合い、主体的な学びへ発展していくのです。

「研究」とは？ ～自分の外側の世界との対話～

私たちは普段、基本的には自己を中心とする世界を生きています。しかし研究とは、そうした自分中心の世界から一歩を踏み出して、自分の外側に広がる世界のあり方を問い、それに働きかけようとする営みです。

対象との格闘のなかでは、なかなか問題の核心に到達できなかったり、問題のあまりの難しさに立往生することもあるでしょう。しかしそうした困難さを伴う経験は、実は私たちの生活や生き方を反省的にふり返り、それをより豊かなものにするためには、どうしても不可欠な経験なのです。自分の外側に広がる世界との対話で直面する、困難や限界の経験。そしてそこから少しずつ見出されていく、新しい価値や生き方。それは、明星学園中学校が教育理念として掲げる「やわらかな鍛錬主義」ということとも、重なり合う活動なのです。

「総合探究科」3年間の流れ

他者との関わりを通じて自分自身を知ること、それが探究の始まりです

1年次

図書館と情報

情報の扱い方や調べ方から、発信の方法などを学習する。

哲学対話

相手の意見を聴く力や他者と対話しながら共通の価値を探り出していく力を養う。

2年次

探究実践

1年次の内容をさらに深め、身近なテーマを協同で探究し、具体的な研究手順を学習する。

3年次

卒業研究

自らテーマを決定して探究していく過程を研究論文としてまとめる。発表会では研究論文を元にプレゼンテーションを行う。



【哲学対話】

人は毎日さまざまなことを考えて生きていますが、社会や人生の中で出会う複雑で答えの出しづらい問いを深く考えたり、うまく考えるにはどうしたらよいのかを学ぶ機会はありません。



哲学的な問いをていねいに思考して他者の意見をよく聴きながら、自らの考えを表現する技術を身につけます。生徒たちは自分とは異なる環境や経験による考え方の違いを想像したり、受け止めたりすることの大切さを学んでいきます。

【図書館と情報】

身の回りには多くの情報が存在しますが、効果的に活用するためには上手につきあう必要があります。

この授業では、情報をスムーズに探す方法や様々なメディアの特徴、著作権などについて学びます。



図書館やインターネットの活用を通して身につける「調べる」力は探究活動の重要な要素です。自分で「調べる」ことができると疑問や課題を自らの力で解決したり、思考を深めていくことができます。また、情報の受け手としてだけでなく、情報を整理・分類して発信するために必要な技術を学んでいきます。

【探究実践】

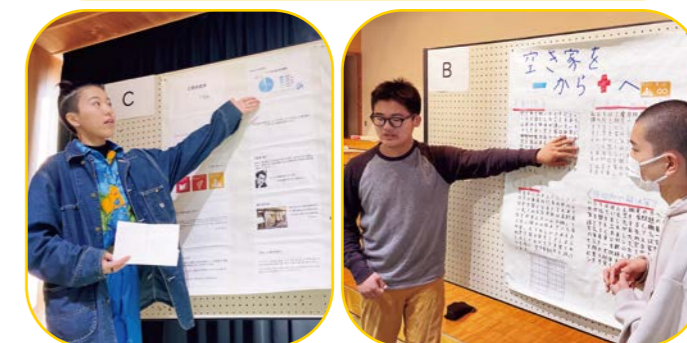
1年間で3つのプロジェクトを行います。生徒たちは、自ら課題を設定し、必要な情報を集め分析を行い発表します。グループによるプロジェクトでは、安心して意見を交換できる場づくりや、お互いの得意を活かし合う意識を一人ひとりもつことが重要です。

この授業では、1年次で培った「対話」の力や「情報収集・分析」の力が発揮されます。2学期に実施している「みたか探索プロジェクト」では、いくつかのチームに分かれて三鷹市の課題の現状や原因を調査します。例えば、空き家の増加問題や、自転車通行の危険性など多岐にわたる問題について自らフィールドワークを行い、解決策を考えます。

「身近にある問題は私たち自身で解決できる」この核心は、自己効力感につながる大事な経験となります。

「みたか探索プロジェクト」での フィールドワークの紹介

- 三鷹市役所に行って資料を調べる
- 子ども食堂の人に取材をする
- 自転車走行の危険を理解するために実際に大通りを走行してみる
- 空き家を見に行き、現状を確認してみる



「卒業研究」の流れ



【卒業研究】

時間をかけて磨き上げた問いは、将来へ続く「わたし」の研究テーマとなります

3年生の1年間をかけ「卒業研究」を行います。これまでにやってきた経験と知識を駆使して、今度は自分ひとりで研究テーマを発見して、調査・取材などの情報収集を重ねて結論まで導きプレゼンテーションを行います。

テーマ設定は特に重要なため、先生やクラスメイトと対話を繰り返し自分の興味関心の根源を探って決定していきます。一人ひとりの生徒についている担当教員はいつもそばにいる心強い相談相手です。

最終的には、これらの研究過程を文章にまとめ、プレゼンテーションを行います。「他者に伝える」活動を通じて、要点をまとめたり、説明を論理的に構成したりする力をつけていきます。

1 研究テーマを決定する

新聞記事の調査や他者との対話を通じて、自身の関心に迫っていきます。

2 「してみる」計画

インタビュー調査、観察、実験など、手足を使って一次情報を集めます。

3 中間報告

調査の過程を報告し、互いに不足の指摘やアドバイスをし合います。



卒業研究発表会

一年を費やして研究した内容を文章として論文にまとめ、それらを下級生や保護者・一般の方に向けて全員がプレゼンテーションします。

発表当日までの数週間、担当教員と綿密な打ち合わせやリハーサルの実施などで、最も緊張が高まる時期です。研究の成果をどうわかりやすく伝えるか、どのように説明したら自分のメッセージを受け止めてもらえるかを真剣に考えます。

「小さな関心の種」から始まった研究は、他者・社会とのつながりの中で大きな問いへと成長していきます。こうした意識の変容は、義務教育段階を巣立つ生徒たちの「学ぶ意欲」や「生きる力」の土台となるのです。

してみる計画

教室で考えるだけではなく、生徒たちには具体的な研究活動として「してみる計画」を立てることが求められます。

関連施設を訪問したり専門家や識者の方へ取材させていただくこともあります。

生徒自身が集めた情報を研究のもとにすることで、中学生でもオリジナリティーのある研究になることを経験します。

取材

専門家や企業などへ直接お話を聞きに行ってみる!

見学・訪問

研究テーマに沿った施設や現場などを見学・訪問してみる!

実験

科学的な実験や検証実験などをやってみる!

アンケート・調査

周りの協力を得てアンケートを集めて分析してみる!

取材

小説家のお話を聞く

「どうすれば読者を感動させる小説を書けるか?」というテーマを研究する生徒が、本校の卒業生でもある小説家に取材に行き、様々な質問に答えてもらいました。

実験

サイコロを1000回振る

サイコロを振る回数が増えるほど、出る目は理論上の確率に近づいていきます。そのことを検証するために、実際にサイコロを1000回振って、それぞれの目が出る確率を出しました。

見学・訪問

国立国語研究所

「日本語はどのように変化していくのか」などを研究する生徒に対して、同研究所の先生から、チラシやインターネット上の表現などを例にして、興味深いお話をうかがいました。

アンケート・調査

青春はいつ終わるのか

青春がいつ終わるのかを研究する為に、「青春とは何か?」「青春と聞いて思い浮かぶキーワード」について、社会人から中学生までを対象に年代別にアンケート調査しました。

「卒業研究ボランティア」によるサポート

保護者や学校関係者の方が様々な形で生徒たちの研究をサポートしてくれています。ご自身の専門分野に関しての相談や、他の専門家・企業・研究機関を紹介してもらったりします。また、講演会やガイダンスなどに来て、研究を具体的に進めるためのアドバイスをしてくれます。



「卒業研究」のテーマ紹介

素直で身近な着眼点のものや、社会問題や科学的なものなどのテーマも自ら外側に向かって踏み出していくものもなっています。これらは「主体的に学ぶ」という明星学園の学習の本質です。

動物の絶滅を抑えるにはどうしたらいいか

機嫌を良くする方法

幾何学を伝えるには

冤罪は減らせるか
裁判員制度で
教科書に載る人物と
載らない人物の
違いは何か

幸せとは何か

ベジタリアンになると健康に問題は起こるのか

寝癖をつかなくする方法

人を魅了する仕事にある共通点とはなにか

エコは本当にエコか?

選挙で日本を変えられるか
亀と人間ではどちらが
身体能力が高いのか

努力とは何か

ポルトガルとスペインが南米に残したものは何か

なぜ地雷は埋められたのか?

めんどくさいってなに

なぜ人は夢を見るのか? 夢を見ることに特別な意味はあるのか?

漢字はなぜ難しいのか
未来の空はどのように変化しているのか
空飛ぶ車の観点からみる

羊楽が日本で人気な理由

「自由」とは

教育格差をなくするにはどうすればいいのか?

対する考え方は

人がSNSに投稿をする心理とは?

なぜ人は夢を見るのか? 夢を見ることに特別な意味はあるのか?

漢字はなぜ難しいのか
未来の空はどのように変化しているのか
空飛ぶ車の観点からみる

羊楽が日本で人気な理由

「自由」とは

教育格差をなくするにはどうすればいいのか?

対する考え方は

エドワード・ゴッリーの魅力
あるいは年がら年中
絵本を読むこと
マナーを守ると料理はおいしくなるのか

マナーを守ると料理はおいしくなるのか

時間の不思議

仲間と協同する中で他者を知り 自分を発見していきます

運動会や合唱コンクールなど多くのイベントで、生徒による実行委員会が組織され、生徒たち自身が仲間と協力しながらイベントの運営にあたります。行事を終えるごとに、仲間とともに成長する生徒の姿があります。

体験学習や修学旅行での経験は、友人や自分自身のことを深く知るきっかけになります。また、国内の異文化に触れることは多様性を自覚することに繋がるので、2年生の民家泊や、3年生修学旅行での民家泊体験は、グローバル教育の一環です。



運動会

生徒の実行委員が中心となって企画から運営までを行います。クラスの縦割りで学年を超えたチームとなります。各チームの応援合戦では、先輩が構成した振付などを後輩たちに教えて一丸となって競い合うので、練習期間も含めて様々なドラマが生まれます。



宿泊行事(1年生)

日常から離れた環境で、新たに出会った仲間と協力して過ごす宿泊行事を実施しています。

2025年度は、八ヶ岳・赤岳鉱泉小屋に2泊して硫黄岳の頂上を目指す登山に挑戦しました。道の険しさを乗り越えながら自分自身と向き合い、仲間と共に登頂した達成感を分かち合う体験を通して、今まで気がつかなかった心と身体の可能性が広がります。そこから得た学びは、協同性や主体性を育む大きなきっかけとなります。



自然の景色の中で見えてくる新しい自分と仲間との出会い



民泊行事(2年生)

農村地域での民家泊を体験します。2025年度に訪れた大田原は、栃木県北東部にあり市の中央には那珂川が流れる自然に恵まれた地域です。生徒たちはそこにご家庭に民家泊をさせていただき、「家族の一員」として田んぼや畑での農作業、薪割り、郷土料理づくりなど貴重な農村生活を体験させていただきます。温かい民家の人々との生活で、人は誰かに支えられて生かされている、ということに気づくはずですよ。



栃木県北東部の大田原での農作業体験



合唱コンクール

杉並公会堂等の大ホールで実施されるクラスごとの合唱コンクールでは、音楽の授業で学んだ力を発揮します。パートリーダーを中心としたパートごとの練習、指揮者、ピアノ伴奏、クラスの団結力が求められます。



沖縄修学旅行(3年生)

この旅行にはさまざまな「出会い」が待っています。民家泊での「新しい大人」との出会い。コース別体験で出会う沖縄の多様性に富んだ美しい「自然」。紅型や三線など独自に発展してきた「琉球文化」との出会い。さらに貴重な史跡や文化遺産を訪れ、琉球史から戦中・戦後、そして現代へつながる「歴史」も学びます。その土地ならではの価値観や多様性との出会いが、自分の世界を大きく広げていきます。



四泊五日の旅行で日常とは異なる文化に出会います

外部の方を招いての特別授業 「この人に会いたい」

学びは教室の中だけで完結するものではありません。各分野の専門家に出会ったり、社会で生き生きと活躍されている方のお話から、生徒たちは大きな刺激を受けるのです。

豊かな経験を持つ彼らの話には生徒たちは興味深く耳をかたむけます。そして問題の奥深さを臨場感をもって感じ、深く考えるようになるのです。



落語家柳亭小痴楽氏(卒業生)

これまでに特別授業をしていただいた方々

21世紀を生きる君たちへの期待
医師、松本市長：菅谷昭氏

写真で伝える仕事
～カンボジア、東北の被災地から～
フォトジャーナリスト：安田菜津紀氏

明星とわたし
～中学時代の「トンプの自由研究」から
研究者の道へ～
千葉大特任助教：高橋佑磨氏(卒業生)

生徒とのトークセッション
俳優、モデル：岡本多緒氏(卒業生)

落語の授業
落語家：柳亭小痴楽氏(卒業生)

ぼくは挑戦人 ～あきらめない心～
ジャグリングパフォーマー：ちゃんへん氏

研究者という生き方
～キリンと解剖って…？
東洋大学生命科学科助教：郡司芽久氏

ナガサキを語り継ぐ
～5人の被爆者との出逢いから
ノンフィクション作家：スーザン・サザード氏

©講演者の所属は講演当時のものです。

多様な価値観を理解する柔らかさ 自己をしっかり持つ強さと厳しさ

人との関わりを通じて相手を理解すること。その先にあるのは自分自身を深く知ること。それは自分たちをとり巻く社会や環境を知ることにもつながります。明星学園ではそのようなことを文化や国境を越えて感じ取ることができる、さまざまなプログラムを用意しています。

総合英語(ネイティブの先生とのTT※)の授業や高等学校を中心に行われる国際理解ワークショップ、タイ・オーストラリアへの短期留学などで異文化と出会い、国際交流を行います。

さらに学内の活動だけではなく、オンラインで実施されている良質のイベントの紹介も積極的にしています。世界で起きてい



ることを「他人事」ではなく、「自分事」として想像できる生徒になってほしいと願います。

生徒たちが自発的に学びへと向かうための多くのきっかけが、明星学園での生活の中にはちりばめられています。

クラブ活動への参加は自由ですが多くの生徒がクラブに参加しています。生徒たちはクラブ活動の場でも主体的に活動する機会が多いため、教員やコーチによる指導だけではなく仲間や上級生によるサポートのもと、明るい雰囲気が進められています。

いくつかのクラブは高等学校と合同で活動しています。

◎年度ごとに変更になる場合があります。



中学校のクラブ

- バスケットボール部
- バドミントン部 ● 野球部
- サッカー部 ● 美術部
- 漫画研究部 ● 書道部
- 木工部 ● ディベート部
- 演劇部 ● 山歩き部

中高合同のクラブ

- 陸上部
- 弓道部
- 和太鼓部
- アンサンブル部
- 鉄道研究部

高等学校のクラブ

- 野球部 ● 女子バスケットボール部 ● 男子サッカー部
- 男子バスケットボール部 ● バドミントン部 ● 剣道部
- ハンドボール部 ● 女子バレーボール部 ● 器械体操部
- 美術部 ● 音楽部 ● 理科部 ● ファッション部
- 写真部 ● ダンス部 ● サンバ部 ● 演劇部
- 国際交流部 ● 料理研究部 ● 漫画イラスト部

和太鼓部 中高合同クラブ

和太鼓を通じて暖かみのある交流を教室だけでは学べない大切な経験

和太鼓部は中学生と高校生と一緒に活動していて、ほとんどの練習が高校キャンパスで行われます。

太鼓を叩くだけでなく体力作りも大切にしています。体を鍛えながら自分を見つめ、仲間と気を合わせてひとつの音を叩き出します。

中学生は高校生ほど演奏の機会はありませんが、入学式・卒業式など学内行事での演奏だけでなく、小学校公演やイベント出演など学園外での舞台もあります。

小さな子どもたちからお年寄りまで、誰にも喜んでいただける演奏ができるように、一生懸命練習に取り組んでいます。

高校生部員は何度も東京都の代表として全国大会に出場し、2015年滋賀大会では最優秀賞を受賞しました。また中学生も、2023年度東京都中学和太鼓部大会で優秀賞(1位)を受賞しています。



第14回定期演奏会(三鷹市公会堂)

アンサンブル部 中高合同クラブ

オーケストラ演奏で仲間と奏でる喜びを

1975年に創部したクラブです。現在は中学生と高校生の約30名が所属し、オーケストラの曲を中心に演奏をしています。

オーケストラは吹奏楽と異なり、ヴァイオリンやチェロなどの弦楽器パートがあります。明星学園のようにオーケストラができる学校はあまり多くありません。弦楽器は経験者でないといけなというイメージがありますが、ほとんどの部員が初めて中学1年生で楽器を手にして、先輩やトレーナーに教わりながらメキメキ上達していきます。高校生になる頃には、演奏会でソロ演奏を堂々と披露するなど頼もしい姿を見せています。

近年は、創部当時に込めた「1つの型にはまらずにさまざまな音楽の楽しみ方ができるようにアンサンブル部と名付けよう!」という想いに立ち戻り、アンサンブルの曲にも挑戦しています。音楽好きな人、他者と共に創り上げていく人が好きな人、ぜひアンサンブル部へ!



定期演奏会(三鷹市芸術文化センター・風のホール)

弓道部 中高合同クラブ

弓道を通じて自分と向き合い礼節と協同性を身につけます

2006年創部。弓道部のなかった創部当初は、学内で藁を束ねた“巻藁”に矢を射る練習のみで、週1回公共弓道場で練習する日々でした。

地道な練習の成果で、地区大会や都大会で入賞したり、インターハイ出場や国体選手の輩出などの実績を認められ、2016年春について新弓道場が完成しました。

中高生合同で班を組んで上級生が下級生を指導しています。中学生は平日に2日と土曜日に練習をして、顧問やコーチ、先輩たちの指導のもとで基礎から上級まで楽しみながら鍛錬を積んでいきます。

「正しい射形で、平常心を保つ」これがクラブの伝統です。弓道連盟に登録して段級審査にも挑戦し、中学生ではなかなか取れない初段に合格する生徒も出ています。

中学生による最近の大きな成果は、2024年1月の東京都中学校弓道団体選手権で女子チームが準優勝。また同大会で、女子個人で準優勝しました。



2016年春 新弓道場開き。OB・OGや三鷹市弓道連盟の方々をお招きして

陸上競技部 中高合同クラブ

競技力だけではなく人間力の成長を大切に活動します

中学校の部員数が大幅に増えて、部員全員で井の頭公園の陸上競技場で練習を行っています。クラブ全体での練習時間を90分以内に設定して短時間集中の密度の高い活動をしています。

陸上競技部としてもっとも大切にしているのは人間としての成長です。競技だけでなく、それ以外もしっかりと取り組める選手は社会に出てからも応援されます。そのため競技以外の場面にも目を配り厳しく指導しています。

このような運動能力だけでなく人間力の成長を通じて、部員たちは主体的に練習などに取り組めます。競技や能力に関する目標を特に課さなくても、自然と高い目標を持ち達成しようとする楽しさを学んでいます。

都大会で優勝や全国大会への出場、東京都駅伝での7位入賞などの成果を残す部員も増えてきています。

それぞれの部員が陸上競技を始めたいきっかけや、その思いを大切にクラブなので、走ることが好きな人や脚が速くなりたい人、運動を始めたい人など、ぜひ一緒に活動しましょう。





みんなが認めてくれたから、 自由にいられた気がします

このパンフレットのために描き下した学校には、僕が好きだった場所や実在する先生を、空想と一緒に詰め込みました。

明星学園に初めて来たのは、体験授業。自分が落ち着いて過ごせる場所な気がして安心したし、小さい頃からずっと描いてきた絵を、たくさん描けそうだなとも思いました。

実際に、グループワークのまとめや復習ノートなど、イラストを活かせる機会はたくさんありました。徐々にみんな、僕が絵を描く人だと知ってくれて、クラブの紹介ポスターのような仕事を任せてもらうこともありました。言葉は苦手だけれど、自分の気持ちを絵で表現してもいいんだと気づけたし、それで認めてもらえるんだって自信がもてました。友達も先生も個性的な人が多いから、明星なら一人ずつに居場所ができると思います。

ほかに、木工室で先生のウクレレの音と木の匂いの中で5人で大きな「パイナップルの椅子」を作った授業も、大きなプラタナスの木の下で日向ぼっこしながら遊んだ休み時間も、井の頭公園を散歩できる通学路も、全部楽しかった思い出が詰まっています。入学後に、絵の中に描いた僕のお気に入りを実際に探してみたいです。

タイチさん 2018年に中学校入学

幼いころから絵を描くことが大好きで、頭の中にある不思議な世界を絵にすることが得意。14歳のとき、名画をアレンジした作品が約4,500作品の中から選ばれ「明石家さんま画廊」に出演し、一躍注目される。



創立時の生徒(小学1~3年生)と創立者たち

建学の精神・沿革

武蔵野の自然の中で、自主・自立を育み 子どもたちを主体的に学びへと向かわせる教育の場

建学の精神

明星学園は従来の断片的な知識の詰め込みであった教育ではなく、子どもの感性や主体的・探究的な学びを重視し、「なぜ」「どうして」に応える教育を大切にしています。「知りたい」「やりたい」「伝えたい」という子どもの欲求を尊重し、教育の内容と方法を一体のものとして研究し続けています。また、子どもの成長にとって大切な自然豊かな地として、池や林が広がる井の頭の地に学校を建設しました。豊かな自然の中で、子どもたちが自由に学び、自らの個性を伸ばせる環境を整えることも、明星学園の教育理念の一環です。

沿革

明星学園は1924年(大正13年)、赤井米吉、照井猪一郎、照井げん、山本徳行の4人の教育者によって創立され、小学校が開設されました。建学の教育理念は「個性尊重・自主自立・自由平等」であり、大正デモクラシーの高まりの中、管理主義的な教育からの脱却を目指した自由教育運動の一環として誕生しました。

創立者たちは、自由教育運動の代表的な教育者である沢柳政太郎(成城小学校創立者)の影響を受け、「武蔵野の自然の中で子どもたちを解放し、自分たちの理想を掲げた学校を開設したい」という熱い想いのもと明星学園を設立し、子どもたちの個性を尊重し、一人ひとりをかけがえのない人格として育む人間教育を実践してきました。

1928年(昭和3年)には、小学校の最上級生の卒業に合わせて中学部(旧制中学校)と女学部(旧制高等女学校)が開設され、上田八一郎が部長(校長)として迎えられました。戦後の学制改革により、中学部・女学部は男女共学の中学校・高等学校へと改組され、現在の学園の体制が整いました。

戦中・戦後を通じて社会状況の変化に直面しながらも、創立時の基本理念や信条は今日まで一貫して受け継がれ、明星学園は約100年の歴史を刻み、独自の校風を築き上げてきました。



1960年代の高等学校校舎



1930年代の女学部。中央に座っているのは赤井園長

高等学校卒業後の主な進学先

国公立大学

一橋大学
東京外国語大学
東京藝術大学
東京学芸大学
東京都立大学
北海道大学
信州大学
埼玉大学
弘前大学
筑波大学 他

私立大学

早稲田大学
慶應義塾大学
上智大学
東京理科大学
明治大学
青山学院大学
立教大学
中央大学
法政大学
国際基督教大学
立命館アジア太平洋大学
学習院大学
同志社大学
立命館大学
成蹊大学
成城大学
明治学院大学
武蔵大学
國學院大学
日本大学
東洋大学
専修大学
東京経済大学
津田塾大学
日本女子大学
東京農業大学
東京薬科大学
北里大学
星薬科大学
日本体育大学
国立音楽大学
洗足学園音楽大学
昭和音楽大学
武蔵野音楽大学
多摩美術大学
武蔵野美術大学
東京造形大学
京都芸術大学
東京家政大学 他

2024年に創立100周年!



SINCE 1924 大正13年創立